

2021年5月24日

取締役会の実効性評価概要について

味の素グループは、事業を通じて社会価値と経済価値を共創する取り組みにより成長してきました。この取り組みをASV (Ajinomoto Group Shared Value) と称し、これからもこのASVの取り組みによる独自の価値創造を通じた持続的な成長を果たすべく、適切な執行の監督と機動的な意思決定を両立できる取締役会を目指しています。その一環として、2015年度から取締役・監査役による自己評価アンケートと外部弁護士による分析ならびに取締役会における結果検証を行っています。2020年度についても、取締役会の実効性に関する分析・評価を実施いたしましたので、その結果の概要をお知らせいたします。

1. 評価プロセス

- (1) 対象者: 取締役・監査役
- (2) 回答方式: 無記名方式
- (3) 評価項目 (概要):
 - 1) 会社の機関設計および取締役会の構成について
 - 2) 取締役の指名・選解任について
 - 3) 取締役の役割・資質について
 - 4) 取締役会の運営について
 - 5) 経営陣の評価および報酬の決定について
 - 6) 経営陣の育成について
 - 7) 取締役会の役割および実行性について
 - 8) 役員等指名諮問委員会、役員等報酬諮問委員会、コーポレート・ガバナンス委員会

2. 取締役会の実効性評価に関する評価の結果 (概要)

アンケートの結果によると、取締役会の実効性については概ね高い評価であり、昨年実施された評価に比べても、より高評価となっている項目が複数あります。これは、取締役会の実効性をより高めるための改革を進めてきたことの結果であると考えます。とりわけ、下記の4点について改善が見られました。

- (1) 企業戦略や中長期的方針の議論が更に充実した。
- (2) 社内取締役の発言が更に活性化した。
- (3) 社外役員候補者の多様性が高度化した。
- (4) 各諮問機関からの検討プロセス・結果の報告が更に充実した。

一方、以下のような改善すべきポイントが残っていると認識しております。

- (1) 取締役会の構成員の多様性
- (2) 社内取締役の発言
- (3) 社内取締役のトレーニング
- (4) 経営陣の育成プログラム
- (5) 諮問機関の検討プロセス報告の更なる工夫
- (6) 指名委員会における事前の情報提供

3. 前回アンケート結果を踏まえた取り組み

2019年度のアンケートにおいては指摘された課題を踏まえ、2020年度に以下のとおり

取締役会改革を進めました。

- (1) 企業戦略や中長期的方針の議論の充実化
重要事項に関する審議に充てる時間を増やそうとする工夫（経営テーマ意見交換会の活性化や重要事項に関する社外取締役への十分な事前説明など）を強化したほか、付議事項を適切に選定して重要事項の審議時間を確保しました。
- (2) 社内取締役の発言
社内取締役の発言の機会が増加するとともに、経営の観点から活発に発言し、積極的に議論に参加する姿勢が更になりました。
- (3) 社外役員候補者の選定
役員等指名諮問委員会において、専門性や多様性を十分に考慮して候補者を選定しており、産業界出身の社外取締役の招聘も新たに予定されています。
- (4) 諮問機関の検討プロセス
取締役会の諮問に基づき諮問機関で審議した結果について取締役会へ定期的に報告されるとともに、審議内容についても更に工夫して報告がされました。

今回の実効性評価において以上の取り組みの効果について検証いたしましたところ、取締役会における審議の充実や監督機能強化に貢献したことを確認いたしました。ただし、さらに改善の余地があることも確認いたしました。

4. 今後の課題への対応

2021年度においては、2020年度の取り組みを継続して推進するとともに、指名委員会等設置会社へ移行することを踏まえて、今回の実効性評価について取締役会で議論を行った結果、以下の取り組みを一層推進していくことにいたしました。

- (1) 多様性および専門性を考慮した取締役会の構成員の選定
- (2) 全社的視点での社内取締役の発言
- (3) 社内取締役のトレーニングの更なる充実
- (4) 経営陣の育成プログラムの更なる充実
- (5) 各委員会の検討プロセスについての取締役会への報告の工夫
- (6) 指名委員会における事前の情報提供の工夫
- (7) 指名委員会等設置会社への移行を踏まえた実効性ある取締役会運営の工夫

当社は、これらの施策を通じて、取締役会の実効性を向上させ、コーポレート・ガバナンスの一層の強化に努めてまいります。

以上